

地球温暖化

氷河が消滅していく。約25年前に見た青白い氷河は消えていた。地球の荒廃をもたらしている人間の営み。我々はこのかけがえのない地球に一時的に住まわせてもらっているだけ。壊れゆく地球—この現実を直視せねばならない。

2009年を無事迎えることができ、新年のお慶びを申し上げます。本年も宜しくお願い申し上げます。

院長 小川洋史

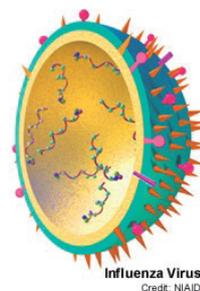
写真：メール・ドゥ・グラス氷河（シャモニー、フランス） 撮影：小川洋史

インフルエンザ

感染対策委員長 医師 長屋 敬

インフルエンザとは

インフルエンザは、通常12月から3月にかけて流行するインフルエンザウイルス(*)により引き起こされる疾患です。特徴的なのは突然の38℃以上の発熱、悪寒、頭痛、全身倦怠感筋肉痛などの全身症状が強いことです。小児では脳炎の発症が問題となっています。高齢者、幼児では合併症(表1)から命にかかわることもあります。



(*)大きく分けてA,B,Cの3つの型がありますが、ヒトで流行するのはA型とB型です。A型はウイルスの表面の突起によりいくつかの型に別れ、一般によく知られているものとしてH1N1(ソ連型)、H3N2(香港型)などがあります。

(表1)インフルエンザとかぜの違い

	インフルエンザ	通常のかぜ
発病	急激	緩徐
初発症状	発熱、悪寒、頭痛	くしゃみ、鼻汁、のどの乾き
主な症状	発熱、筋肉痛、関節痛、全身倦怠感、上気道症状	鼻汁、鼻閉、咽頭痛、咳などの上気道症状
発熱	38から40℃	37.5℃まで程度
合併症	気管支炎、肺炎、脳炎	時に中耳炎、副鼻腔炎
発生	流行性	散発性
病原	インフルエンザウイルス	ライノウイルスなど
迅速診断	あり	なし

けんこう百花62号

新生会
情報誌

#IOSPY

#IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY

2009年1月1日発行 編集:健康ネットワークいきいき 名古屋市瑞穂区玉水町1-3-2 新生会第一病院 TEL:(052)832-8411

インフルエンザの感染経路と治療

インフルエンザウイルスは咳、くしゃみなどによる飛沫感染により広がります。ウイルスに感染すると、1-3日の潜伏期間の後、発熱、上気道症状などの症状が出現し、3-7日ほど続き通常1週間ほどで自然治癒します。しかし高齢者、慢性疾患患者では重症化しますし、周りの人へ感染を広げないためにも、早めに医療機関を受診することが大切です。

インフルエンザの診断は、のどや鼻腔の拭(ぬぐ)い液を使って30分ほどでできます。



治療法

一般療法

安静、十分な睡眠、栄養を取ることを心がけます。脱水を防ぐために、十分な水分を取る必要もあります。

対症療法

発熱に対しては基本的に冷却をして対応します。アセトアミノフェン以外の消炎鎮痛剤はインフルエンザ脳症を引き起こすので、安易に解熱剤を飲まないことです。通常の風邪薬にも含まれていますので注意が必要です。解熱剤に関しては医師の指示に従ってください。

ウイルス薬

インフルエンザウイルスに対しては抗生物質は効きません。抗ウイルス薬をインフルエンザ発症48時間以内に服用することでウイルスの増殖が抑えられます。抗ウイルス薬には、A型のみにも効果があるシンメトレルとA,B型両方に有効なタミフル、リレンザがあります。タミフル内服後の異常行動の問題があり、10歳代の内服は原則禁忌となっています。



インフルエンザの予防

流行前のワクチン接種

ワクチンはインフルエンザに罹った時の重症化を防ぎます。ワクチン接種後、効果が表れるまでに2週間ほどを要します。65歳以上の高齢者、慢性疾患の患者さんなどはワクチン接種をお勧めします。



帰宅時の手洗い、うがい

咽頭粘膜、手などについたウイルスを除去します。

マスク着用、外出を控える

外出時にはマスクを着用し、人ごみなどへの不要な外出を控える。

十分な休養と栄養を取る

適度の湿度の保持

乾燥するとのどの粘膜の防御機能が低下し、インフルエンザに罹りやすくなります。湿度を50-60%を保つようにすると効果的です。



新型インフルエンザウイルス

病原性の高い鳥インフルエンザウイルス(H5N1型)は本来は野鳥が持っているものですが、これが変異をして人に感染するようになったのが新型インフルエンザウイルスです。もともと鳥のウイルスのため免疫をもつ人はほとんどなく、容易に人から人へ感染して広がり、急速な世界的大流行(パンデミック)を起こす危険性があります。高病原性のため肺炎などの合併症を起し易く、致死率も高いことが問題です。予防としては通常のインフルエンザと同じですが、現在のインフルエンザワクチンでは効果がありません。

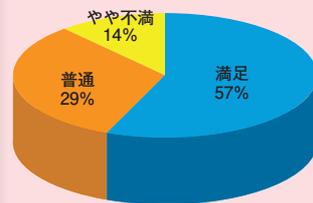
慢性腎臓病（CKD）教育入院レポート

現在、慢性腎臓病から透析導入する方が増加していますので、国をあげてその治療に取り組むようになってきています。

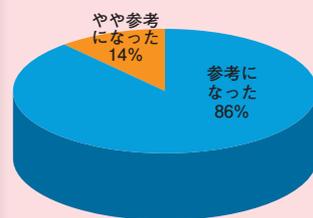
当院は、元々腎臓病の専門病院ですので、この慢性腎臓病の治療に積極的に取り組んでいます。その一つとして、慢性腎臓病の方を対象にした1泊2日の教育入院を2008年8月より開始しました。この教育入院を利用していただいた方々にアンケートをお願いしておりますので、その結果を報告いたします。

各講義内容については、「わかった」という評価が多く、とくに調理実習は「参考になった」と高い評価を得ています。慢性腎臓病は食事療法が鍵となります。わかりやすい指導（教育入院）を是非ご利用ください。

教育入院は全体的にいかがでしたか？



調理実習の内容はどうでしたか？



接遇講習会

テーマ：「心を満たす人的サービスをめざして」
開催日：2008年11月18日



新生会第一病院にて接遇講習会を開催しました。今年は愛知県健康福祉部健康担当局医務国保課より講師の先生をお招きしました。接遇の基本となる挨拶・言葉遣いを始め、職員同士でグループを作り演習を通して相手が自分の言動に対してどのように感じているか学ぶことができました。

接遇講習会で学んだことを、仕事や日々の暮らしの中で活かしていきます。

(接遇担当者)

☆新生会第一病院に今年も サンタクロースがやってきました☆

12月20日に入院患者様を対象としたクリスマス会が開催されました。催し物の時代劇やプレゼントの抽選会が行われ楽しいひとときを過ごすことができました。



☆通院透析患者様・入院患者様にクリスマスプレゼントが届けられました。

接遇研修アンケート結果(抜粋)

～接遇研修に参加して感じたこと～

- ・ 接遇は、マニュアルだけでなく、自分の頭で考えるプロセスが大切だということが心に染み。
- ・ 基本的マナーは、何回聞いても忘れることもあり、自分を見直す機会になりました。
- ・ 時間経過とともに忘れがちなことを思い出し、また気をつけながら対応したいと思います。

患者サービス推進委員会

第10回 新生会オープンセミナーのお知らせ

高齢者の肺炎を防ぐために 名古屋記念病院 総合内科部長 西岡 弘昌
 感染の予防・自分でできること 新生会第一病院 病棟看護師長 佐々木しのぶ

肺炎の死亡率は戦後激減したにもかかわらず、高齢者の死亡率は変わっていません。高齢者は、肺炎の治療より予防が大切です。とくに高齢者に特有の「誤嚥性肺炎」を防ぐことがとても重要です。

今回は、肺炎にならないための予防を中心にセミナーを開催します。この機会に理解を含め、肺炎にならない生活スタイルを身につけましょう。

日 時：2009年3月14日(土)午後1時30分～3時30分

場 所：新生会第一病院 集会室

お問合せ先：健康ネットワークいきいき(清水)TEL(052)832-8411(代表)

いきいき活動報告

やとみ福祉まつり2008に参加しました。

11月3日(文化の日)に弥富コミュニティセンターで開かれた「弥富福祉まつり2008」での健康相談コーナーに参加しました。55名の方が健康相談コーナーに訪れ、私たち看護師と一緒に血圧測定や腹囲測定、ストレス度チェックを行いました。ストレス度チェックでは皆様それぞれの悩みをお持ちであったり、また、ご自身にあったストレスの発散方法を考えたり、実施されたりしていました。皆様が日頃からこころとからだの健康に気をつけている姿がとても素晴らしいと感じました。
 (十全クリニック看護師 村上裕香)



健康ネットワーク“いきいき”

住所 〒467-8633 名古屋市瑞穂区玉水町1-3-2

新生会第一病院

電話 (052) 832-8411 FAX (052) 832-8417

<http://www.shinseikai.org>

～交通機関のご案内～

- 地下鉄名城線 瑞穂運動場東下車 一番出口から徒歩10分
- 地下鉄名城線・桜通線 新瑞橋下車 市バスで弥富通4丁目下車



新瑞橋からタクシーで10分

- 名鉄本線 神宮前下車 市バスで弥富通4丁目下車 神宮11 < 島田一ツ山行き 相生山住宅行き

